

SWISSの旅 7/19 (3日目)



真夜中に時間を間違えて、ホテルの外に出てしまい星空を見て、携帯で時刻を確認してみた、AM1:30と気づき、戻ろうとすると玄関が開かない。ホテルに入る事が出来なくなり、ベンチで夜明しするはめになりそうなハプニングがありました。この日も目覚めが早く、起きだして朝の散にでる。ホテルのすぐ前はWAB登山鉄道ベルゲン駅、

今日も天気がいいぞ ヨングウンヨッポがくっきり見えます



線路ははるか天まで続いているようです



小道が迷路のように四方八方に続いているベルゲンの町 建物はほとんどホテルでした

早朝から散歩している人が居ますがほとんど日本人 おはようございますで挨拶すればすみます。夫婦ずれが多い。日本人にはスイスが好きな人が多いが、ほんとに多い。接客業の人はカタコトの日本語で愛嬌をふりまく



ぐるつと回って駅前に戻る

朝食はお決まりのバイキング形式 この方が好きな物が沢山食べられよかった “さあー皆さん集まってください 人数確認です” 金沢さん “ところで今日の天気はどうですか？ 愚問でした。晴れ、雨、雷が予想されていますとのこと。なんだそれって予報はないのと同じでは



ベルゲンの駅からまずラウターブルネンまで下り、乗り換えてヴェルダースネル駅まで行き、それからSPB登山鉄道で本日の目的地のシーニゲブラッツ展望台に向かいます。全部旅行社が手配済みなんで、指定席ではないが、車両指定で助かります。個人での行動では事前の手配はなかなか大変なことと思われます。

昨夜はよく眠れたようで 天気が良く、皆さんも御機嫌の様子です



山に登る電車の車窓からはまずは牧草地



高度があがるにつれて 高山植物の花々が現れてきました。



インターラーケンの町の両側にある湖のひとつブリエンツ湖が見え始めました。



左側にはトゥーン湖も見え始めました。水の色が全く異なります 後続の電車の後ろからのどかに登ってきます まさにテレビで見る世界でした



展望台まで着くとこの今まで見えなかった反対側に名峰三山 アイガー、メンヒ、ユングランヨッホが見え始めました。



展望台に着くと三山の絶景ポイント まず記念写真ですね。



人物を替えてもう一度



左からアイガーそしてその魔の北壁が眼前に、修道士という意味のメンヒ 右側がユングラウンヨッホ メンヒとユウグランの間に今日の午後行く予定のスフィンクス展望台

の建物が米粒のように見えました



本物のアルプスの景色が眼前に広がります

テレビで見たようなアルプスのトレッキングコースの道が幾重にも見えます。皆こんな所を自由に歩いてみたい思いです。今回は下見で本番で来るようなことを何方かが言っていました。本番があるといいね



撮り忘れていました 絶景ポイントで サングラスが似合います



アルプスに来たという記念に撮ってもらいます

展望台の裏はシーニゲプラッツ植物園があります。



園内は 600 種の高山植物は移植されているという

はなの季節は今盛り どの花も色とりどりに咲き誇っています。まさに花園



花々に囲まれたところで集合写真を撮をパチリ



園内はぐるっと約30分で回れます。

花園に紛れ込んだようです。花オウチの小生にはもったいない ひとつも分かりません。エーデルワイスの名前くらいは知っていますが



Gymnadenia conopsea
Langspornige Handwurz
Alpweiden
Magerrasen



Phyteuma orbiculare
Kugel-Rapunzel
Magerrasen
Auf Kalk

以下名前と花を一緒に撮ってみたのですがなにしろ花が多くてとてもとても



Tritolium pratense
Rot-Klee
Wiesen, Weiden
Futterpflanze



Antennaria dioica
Bettwiese
Magerrasen
saurer Boden



Rhinanthus
alectorolophus
Zottiger Klappertopf
Halbparasit Wiesen



Hedysarum hedysaroides
Süßklee
Kalkrasen
Rostseggenhalde



Gentiana bavarica
Bayrischer Enzian
Quellfluren
Frische Rasen, Kalk

植物園を抜けても花畑の中の小路は延々と続きます。YさんとNさんははるか向うまで行ってしまいました。とにかく歩きまわったそうでした。



Luzula alpina-pilosa
Wiesen, Magerrasen
Auf Kalk

この花畑の中4人組で記念写真



寒からず暑からず空は青く周りには花々最高の気分です
スイスに来てよかったとつくづく思いました。
クラブの同行者が居なければ一生来れるチャンスはなかつ
たと皆さんに感謝です





あっりましたスイスの花 エーデルワイス 白い地味な花でした 野生のエーデルワイスはめったに見られなくなっという



三山さん一旦別れますが これからすぐにそちらに伺わせてもらいます



登って来たSPB登山鉄道で下り、乗り換え、乗り換えてベルゲンに戻ります



午後は自由行動ですが 8人組はOP参加をきめていましたのでベルゲンにもどるとすぐにユングランヨッホ・スフィンクス展望台方面のWAB登山鉄道に乗って向かいます



登山電車ではクライネシャイデック展望台まで行きます



だんだんユングランヨッホの雄姿が近づいて来ます



ここはクライネシャイデック展望台 標高2061m ここからはJB登山鉄道に乗り換えてスフィンクス展望台3548mへ 1500mを一気に登ります。その前にここでランチです



このオプションはこのランチとユングラウンヨツホ展望台 約9時間のコースで28500円なりです どんな豪華なランチかと思えば全く普通。ビールを飲めばちゃんと別料金徴収されました



当初価格が高いし、展望台が雲の中だったらという心配から このオプション申し込みは止めましようとしていましたが旅行直前にNさんが行きたいというので少し調べてみると、とても予約が取りにくい希少価値の高い登山電車 またスイスでも最高峰（高さのことではなく）の展望台のようで、出発数日前に全員参加することになり、（OPは国内に居るうちに手配が必要のため、申し込みが必要、多分キャンセルも不可）申し込んでいたものでした。二万円は往復の登山電車賃とのこと、添乗員からは渡されたキツプは無くさないようにと特に注意を受ける ポケットが一杯あり過ぎるAさんは検札の時なかなかでてこないということがしばしば



ここからはこの登山鉄道 アイガーの山を掘り抜いたトンネルだそうです。この写真はこの鉄道がトンネルの中停車し、アイガー北壁に窓を作り、外が覗けるようにしたもので、この写真はその窓から撮ったものです。氷河と言う川の流れが見えました。アイガー、メンヒ、の山の内部は鉄道のトンネルがぐるぐるとくりぬかれていることかやっと理解できた



山容は全く自然そのままなのに



登山電車の終点 まだまだ地下です この地下にはいろいろな施設があります展示室、レストラン、氷の宮殿、研究所、郵便局etc ここは氷の宮殿です



氷河の中に作った氷の通路、つるつるで透き通って、綺麗です。これが氷河の中と言われてびっくりです。てっきり人工の氷と思いましたがここで吉野さんの説明。日本にも氷河と最近認められたところが立山にあるという それも初耳



地下からエレベータでスフィンクス展望台の建物登り、ようやく地上に立つ。外に出て見るとすぐ近くにメンヒの頂が眼前に 手に届きそうです 電車を降りてから、日本酒2合ほど飲んだよわうな頭にもやがかかったような気分が続きます。これが高山病か



いきなり小雪まじりの冬の北海道に降り立った様でした。この格好では寒くしょうがない！！写真を撮るとそうそうに屋内入る



開米さん撮影

